

政治的な生臭い話は書きたいことは多々あれど、やめよう。

さて、銀座、丸の内、有楽町界隈が元気である。再開発効果であろうか、買物客等の回帰現象が著しい。今後益々変貌を遂げ、超近代的なショッピング街が現出するのだろう。

このような、超近代的な都市のあちこちに、古来より地域の守護として、商売繁盛、家内安全、火伏せのシンボルとして、静かに見守ってきた神社が意外に多く存在している。

銀座では大銀座祭りの一環として「銀座八丁神社めぐり」が行われている。残念ながらその機会を逸したので、今般昼休みにこれらを巡った。

今回は、これらの神社を紹介する。面白いと言うか、日本の知恵と言うべきか神様が同居して喧嘩せず仲良くしていたり、屋上の本殿にパイプで祈りが届くように工夫されたり等特色に富んでいる。多数の神様が同居するなど、多分欧米や中東アラブ諸国の者には理解し難いだろう。日本的な知恵があれば今日の中東問題は一気に解決するはずだ。

彼等には、爪の垢を煎じて飲んで貰いたいものだ。

先ず、全体的な特色等を述べ、その後各神社の縁起を掌握したので紹介する。

I 特色

- ① 多くの神様を合祀して喧嘩しないかと心配したくなる神社、したがって白い鳥居
- ② 稲荷神社が多数：9社中6社が稲荷神社であり、商売繁盛を願う地域の願望
- ③ 屋上奉安：5社(松屋、三越、松坂屋、資生堂、朝日稲荷神社、越後屋)
- ④ パイプにより屋上拝殿に参詣者の願いが届くように工夫された神社
- ⑤ ビルの一部に組み込まれた神社：朝日稲荷神社
- ⑥ 9社のうち7社が銀座七福神に指定されている。
- ⑦ 平常は部外者の参詣は不可で、祭礼時のみ地上に奉安して参詣を認めるものあり
- ⑧ 縁起文がなかなかの名文

II 各神社の縁起と写真（小生の関心度の高さ順に！）

① 成功稲荷神社（7丁目）満金龍神稲荷 （資生堂屋上）



通常はハウスオブシヤイドウの屋上に奉安されているが、お祭りの時には地上に降ろされて参詣出来るようにしてある。思い切って、美人の受付嬢に請うて特別に参詣させて頂いた。貰った資料によれば、来歴等次の如し。

「東京銀座 7 丁目の本社屋上に鎮座するお社は、千木と鯉木を具した立派な覆屋と生垣に守られ、神社名の満金龍神(宗像大神)、成功稲荷の他、出雲大社、鬼子母神、水神が合祀されている。資生堂は創業時より出雲大社への崇敬が篤く、大社の建造物をはじめとする種々の寄進、例年の役員の大社参拝などを行っているが、ここで紹介するお社の創業については、次の来歴がある。同社が会社組織として整備されたのが昭和 2 年。当時の福原信三初代社長が、豊川稲荷から「成功稲荷」を受けてきたのが、お社のはじまりといふ。その後、宗像大神を同社に合祀し、会社が成功するためには、お金を貯えなければならないといふことで、「満金龍神」と称した。祭日は、創立記念日と大銀座祭りの年二回。祭典には赤坂の日枝神社の神職が斎主となり執行されている。（以下

略) (昭和 61 年五月 1 日企業の 神社(神社新報社発刊))掲載多種の神様合祀の為、鳥居の色は赤塗りではなく白木。

② 朝日稲荷神社 (布袋尊) (3 丁目)



朝日稲荷神社は、古来より当地に鎮座し、守護神として厚く奉斎され遠近の崇敬を集めていた。しかしながら安政の大地震により、社殿倒壊し、三十間掘に幽没して以来、社地は荒廃し浮浪の徒参集して見るかげもなかった。大正六年銀座を襲った大海嘯によって三十間掘より霊体が現われた。建築業館岡某が当地に奉安したが関東大震災により転地を余儀なくされ、神社は銀座 3 丁目町会が奉するところとなった。町会崇敬者一同神威を畏み奉り町内 守護神として奉

斎しようとしたが、当時社地は東京市有地に編入され東京市の管理下にあった。3 丁目崇敬者は時の東京市助役を訪ね社地の下附を願ったが叶わなかった。しかしながら土地使用黙許の許可を得、社殿が建立され社地は整えられた 初午が盛大に祝われ、縁日は四丁目の出世観音のそれと伍して多くの人々を集めた。こうした町内守護神として広大な神徳を顕すに至ったが、戦災のため社殿はことごとく烏有に帰した。戦後社殿を再建し昭和二十七年宗教法人朝日稲荷神社となる。以後 3 丁目町内会によって厚く奉斎され、その神威はいや増して広大、信心する者にあまねく守護を及ぼしている。昭和五十八年隣地の大広ビル改築に伴い共同ビルを建築するに至ったビル一部の一二階を吹き抜け拝殿とし本殿を屋上に安置したが、パイプにより大地につながり拝殿での参拝が本殿に届くよう工夫されている。時代に先駆ける銀座の地にふさわしい神社となった。毎年初午に盛大に祭りを催し、また大銀座祭りの八丁神社巡りの札所として、銀座 3 丁目にとどまらず多くの人々の崇敬を集めている。商業の神として商売繁盛はもとより当地に鎮座して以来火災なくまた縁結び家内円満にもその神威はとどまる所を知らない

昭和六十三年

銀座三丁目町会

③ 靄護 (かくご) 稲荷大明神 (寿老人) (6 丁目) (銀座松坂屋屋上)

抑も当靄護大明神は今を去ること百五十年の昔文化十二年は如月の午の日、山城伏見の本宮より勧請して江戸の根岸の里に奉安す、爾来店主店族は素より江戸市民の深き信仰



を蒐めて今日に至れり、明治十四年の或る夜神守の親爺は神殿付近に於いて白狐を認めたるがその跡に一卷の掛軸遺留しあるを発見し怪しみて繙けば、畏くも三州豊川稲荷大明神の尊像にてありしかば直ちにその由を店主に告げて神霊とと共に奉祀して今日に及べりと伝う、大明神は靈験洵に顕にして特に火防の神として世々附近住民の難を救はせ給へる事一再に止らず近き例に徴するもさる大正十二年九月関東大震災亦大正十四年三月日暮里の大火に当り危く見えたるにも拘らず神域社殿は勿論松坂屋舎宅の凡べて無事なるを得たるは今尚世人の耳目に新たなる所なり、昭和四年巳巳の春二月十八日 二の午の吉辰

をとし日枝神社宮司に請うて神霊を分霊し地上八十尺の本館屋上に奉安して茲に遷座の式を行えり

昭和十年四月十五日誌

④ 銀座出世稲荷神社 (福祿寿) (4丁目) (銀座三越屋上)



銀座三越屋上に安置します銀座出世地蔵尊は、明治の一の頃、三十間掘より出世したと云われております。当時、地元の鳶職が銀座四丁目三番地辺（現在の七番地）の空地へ安置しましたところ、道行く人々や近隣の信心篤い人達が花やお団子を供え参詣するようになりましたが、やがてこの地蔵尊は開運・出世・延命・商売繁盛のあらたかな御利益があると云うので、お堂も小屋から木造になり毎月七日、十八日、二十九日にご縁日にきました。ご縁日には、いろいろな露店が出て非常な賑わいを呈して参りました。これが銀座八丁露天のはじまりと云われております。四月八日の釈迦降誕生日には甘茶の接待などがあり広く参詣者に親しまれましたが、その後震災・戦災などで火をくぐり、波乱曲折を経てこの度、銀座三越が新築するに際して元の「美松」跡より屋上に移し、築地本願寺により開眼法要を行い、新たな堂宇に安置し銀座八丁目の守り本尊として銀座の街の人々を中心に広く一般のご参詣を受けることになったのであります。ご利益を祈願して成就せざることなしと伝えられる銀座出世地蔵尊の広大なる恩恵に浴するため一人でも多くのご参詣あらんことを願うものであります。

昭和四十三年十月

銀座出世地蔵尊奉賛会

⑤ 宝童稲荷神社 (恵比寿神) (4丁目) (ビルの谷間の路地裏に鎮座)

この辺は徳川中期頃より弥佐衛門町と称せられていた。弥佐衛門とは江戸城内に使えた侍で功なり歳老いてこの地に屋敷を賜り居住したことより地名となり、草分けの名主となったと伝えられている。町内に宝童稲荷の社あり、いわれは歴代将軍の子孫が夭折するところより江戸城内紅葉山に稲荷を祭り（祭神豊受大明神）宝童稲荷大明神と称し子育ての祈願が行われたという。弥佐衛門は宝童稲荷の御神霊をこの地に分け祀ることを願ひ許されて町内の氏神として祀り子育て、火伏せ、縁結び開運の神として信仰を集めた。この町内は地方諸大名が参勤交代の長道中で損じたつづら等具足の修理や売る店が軒を並べていた由、つづら屋は昭和三十三年頃までであった。又、明治の詩人北村透谷がこの地に住み、井戸あり水清く、水量豊で「透谷筆洗いの井戸」として昭和三十三年頃まで存在した。（並木通り中央付近）



昭和五十五年 月 日 記 (銀座四丁目一, 二, 三番)

銀座四丁目町会銀友会 会長 吉田裕彦

⑥ 龍光不動尊(3丁目) (松屋屋上)



ここに奉安されております龍光不動明王ご尊像は鎌倉時代の名匠の作で高野山龍光院に於いて靈驗現われましてからも七百幾星霜を経ており、昭和四年五月松屋に念持仏としてお迎えし、屋上の宝殿に安置申し上げ、龍光不動尊としてあがめ奉り、松屋の鎮護とされております。毎年正月、五月ならびに九月の二十八日には例祭をとりおこなっております。参詣される方には、禍を転じて福となし願望もかなえられ、家内安全、商売繁盛といわれております。

昭和 63 年

松屋銀座

⑦ あづま稲荷大明神（大黒天）（5丁目）



戦後メインストリートとして発展したあづま通り・三原小路に火災が連続発町内の者も不思議に思い調査の結果この一角にお稲荷さんが祀られていたことが判明 町内一同相談の上京都伏見稲荷講中を作り あづま稲荷大明神と命名 京都伏見稲荷大社にお参りし 御霊を頂き氏神様山王日枝神社に御祈祷を願い 三原小路の方々の格別の御芳志により 現在地に鎮座し盛大にお祀りを致しましたところ以後全く火事にあわず靈験あらたかに今日に至っております 年一回初午の日に大祭を斎行し街の発展と火防・盗難守護の祈願いたしております

⑧ 幸稲荷神社（弁才天）（1丁目）



縁起は発見・確認出来なかったけれど、資生堂で貰った銀座八丁神社巡り関係資料によれば、「由来は京都伏見稲荷。太刀を売る店が多い土地柄で太刀売り稲荷と称された。その後廢れるも信心深い夫婦が社を大正10年に復元。夫婦に「人の世に苦しむことを助け、幸いをもたらすよう」との神のお告げがあり、社名改名

⑨ 銀座稲荷神社（毘沙門天）（2丁目）

越後屋屋上に奉安されているが、工事のため赤坂（？）一時的に遷座して頂いていると聞いたとは警備員の話である。したがって写真及び縁起は省略する。

（了）